

News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

創刊号

発行 / 大阪大学医学部附属病院広報委員会 (総務課)
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載

(この紙面は再生紙を使っています)

住所 / 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-15 TEL / 06-6879-5016

未来医療センター 構想固まる

21世紀に阪大病院が力を入れて取り組むのが未来医療です。今、この分野で注目されているのは遺伝子治療や再生医学の他、医用ロボットなど生体工学を駆使した医療などです。その具体化のため、阪大が中核診療施設として設立を目指しているのが未来医療センターです。移植から始めて、不可能とされてきた、神経の修復「まで」最新医学は進む一方で、安全面、倫理問題や安全性などを検証するためにも、評価・審査「安全・情報管理」部門を備えたセンターの設立がのぞまれているのです。構想案が固まったセンターの仕組みについて解説します。

「遺伝子治療」移植・再生医療」「生体工学」などの実践

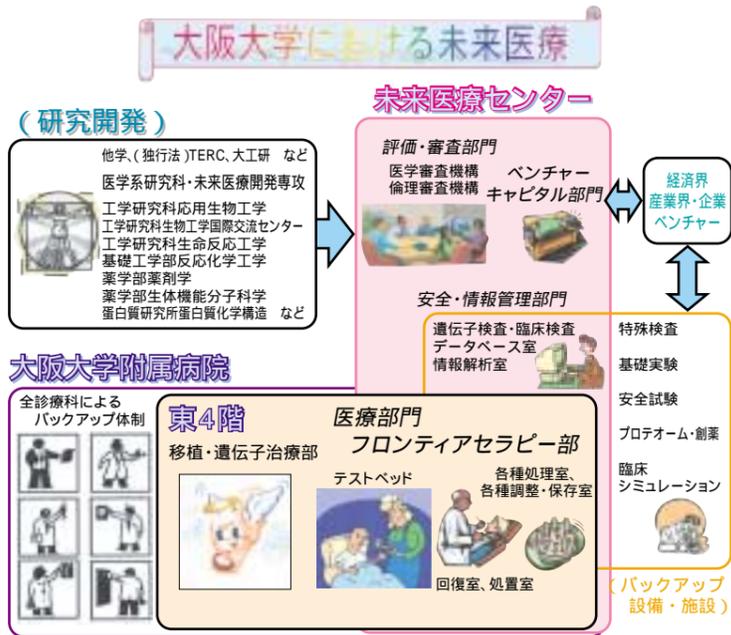


未来医療センターの準備がすすむ阪大病院

倫理・安全性に配慮

阪大病院は未来医療の基礎研究にも積極的かつ先進的な取り組みを行い、国際的な成果を上げてきました。その中には人への臨床応用が今すぐ可能なものもあり、今後、今後はもつと成果が上がるものと予想されます。この成果を未来医療に具体化していくには既存の施設・診療体制では不可能です。そこで、未来医療センターの構想が持ちあがったのです。実は93年の吹田移転の際の設計図には「トランスレーショナルリサーチセンター」の名称が盛り込まれています。これが実現したとき、大学・病院センターの3者協力の未来医療体制が整うの

です。構想によると、センターは従来の診療科、診療部から独立した特殊診療施設とされ、「評価・審査部門」「安全・情報管理部門」「医療部門」「ベンチャーキャピタル部門」の4部門で構成されます。医療チームはプロジェクト毎に編成。治療前後のハイケアをすることで、先端医療を行う際の、倫理的評価を受けることとなります。4部門の詳しい内容は以下の通りです。



【研究開発】 他学(独行法)TERC、大工研 など 医学系研究科・未来医療開発専攻 工学研究科応用生物工学 工学研究科生物工学国際交流センター 工学研究科生命反応工学 基礎工学部反応化学工学 薬学部薬理学 薬学部生体機能分子科学 蛋白質研究所蛋白質化学構造 など

【未来医療センター】 評価・審査部門 医学審査機構 倫理審査機構 ベンチャーキャピタル部門 安全・情報管理部門 遺伝子検査・臨床検査 データベース室 情報解析室 特殊検査 基礎実験 安全試験 プロテオーム・創薬 臨床シミュレーション (バックアップ設備・施設)

【大阪大学附属病院】 全診療科によるバックアップ体制 東4階 医療部門 フロントセラピー部 テストベッド 各種処理室、各種調整・保存室 回復室、処置室

【ベンチャーキャピタル部門】 未来医療を実践する現場と企業の間で、新規医療を円滑に実行する。既存の企業やベンチャー企業の育成と協働体制を作り、原資の運用で未来医療の経費も生み出します。

阪大病院の理念・基本方針

大阪大学医学部附属病院は、診療を通じて医学の教育と研究を推進し、医療の発展に貢献する。

基本方針

一、大阪大学医学部附属病院は、教育・研究を通じて得られた成果を高度先進医療の実施、先端医療の開発に活かすことにより、我が国の医療の向上に貢献する。

一、大阪大学医学部附属病院は、質の高い医療の提供を通じて社会に貢献するとともに、地域医療の発展に寄与する。

患者さま本位「心」重視の医療

いよいよ二十一世紀を迎えました。世紀末の混乱から新たな期待と不安の中で、地球社会、日本そして阪大病院は未知なる海に船を漕ぎ出ようとしています。二十一世紀は「戦争の世紀」とも、テクノロジーの世紀」とも、コンピュータやバイオの時代でフィナーレを飾りました。つまり



院は未知なる海に船を漕ぎ出ようとしています。二十一世紀は「戦争の世紀」とも、テクノロジーの世紀」とも、コンピュータやバイオの時代でフィナーレを飾りました。つまり

二十世紀とは一言でいうと技術を基盤として「物」を重視して発展した世紀であったと思われ、本末物と心

が融合したところに存在すべき医療の世界において、データ・遺伝子などを優先し、ややもすれば「心」を置き去りにした医療ミスマッチや不信の要因につながったものと思われ、そこで二十一世紀はあらためて「心」を重視した世界を取り戻す世紀にならなくてはなりません。阪大病院では二十一世紀

においても緒方洪庵の在すべき医療の世界に示された方向性がある。阪大病院も独立行政法人として、その使命を果していくこととなります。もちろん先に示した「理念基本方針」を基盤にして、教育、研究、診療を推進していくことに変わりありません。この結果、国立大

義が十分に一般社会の人達に理解されていないのも事実です。阪大病院の診療を通じて推進する研究や、教育の意義、病院運営に対する財政的な役割、さらには先進医療の推進による社会的貢献などを今後どのようにして進めていくかについて、私達自身が模索していかなければなりません。これまではこの多彩な阪大病院の機能や実績を社会に対して的確に広報する

努力を怠っていたように思われます。また、阪大病院では医師の顔が見えない、病院全体としてのまとまった診療の顔が見えない、地域との連携が具体的に見えないといった指摘もよく耳にします。阪大病院の財政運営にもしっかりと診察を通じて得られた収入で大学病院本来の教育、研究費の大半がまかなえるという事実なども、よく知られていないのが実状です。これらのことを含め、阪大病院について

の幅の広い情報を多くの方にご理解していただくために、阪大病院広報紙の発行を一時でも早くと思いついた次第です。この広報紙により阪大病院の最新情報にすぐ取り組みを知っていただき、皆様のご意見、ご指導を受けながら阪大病院をさらに活性化してまいりたいと念願しております。

「専門 内分泌・代謝内科(高脂血症、糖尿病、肥満症、痛風)」 2000年11月 日本医師会医学賞受賞

幅広の情報を発信

